

平成 31 年 2 月 25 日

公益社団法人日本産婦人科医会 会長 木下 勝之
副会長 平原 史樹
常務理事（先天異常部会） 中井 章人

妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意

厚生労働省からのお知らせや報道でも見られるように、関西、都会を中心に、全国で麻疹患者の発生報告が相次いでいます。本邦内での発生例はもとより、現在流行中のアジア、ヨーロッパの国々に渡航歴のある患者、あるいはそれら流行国からの来日者等の届出症例もあわせて今後の流行が懸念されていることが報告されています。

そこで、本会では、妊娠している方ならびにご家族等の皆様に次のとおり注意点についてお伝えいたします。

1. いま、麻疹（はしか）は特に**大人の間で流行**しています。

麻疹（はしか）に罹患したことのない方、免疫抗体の不足している方（予防接種を2回していない方など28歳以上の年齢層の男女が多く含まれます）には**感染者が多く発生**しています。

（*）海外の流行地；中国、東南アジア、東欧、イタリア等

日本での流行報告地区：大阪府、三重県 ほか

上記の地域の方はご注意ください。

またこれらの地域へのお出かけは極力避けることを強くお勧めします。

2. **妊娠中に麻疹（はしか）に罹患**すると、一般に（母体が）重症化することが知られており、流・死産、早産の頻度が上昇するとの報告があります。また、胎児奇形を起こすことはないと言われていますが、胎児の発育異常、羊水量の異常、新生児麻疹（分娩時罹患）などをきたすおそれがあるとされています。

3. 麻疹ワクチン（通常は麻疹、風疹対応の **MR ワクチン**が使われます）は、妊娠中には接種できませんが、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（とくに28歳以上の男女）は、積極的に接種を受けられるようにしてください。女性は**接種後2か月間の避妊が必要**ですが、妊娠に気づかず接種した場合でも、通常は問題なく妊娠中絶は必要ありません。なお、地域によってはMRワクチンの公的補助が実施されてい

る自治体もありますので、地元の保健所等にお聞きになることをお勧めします。

4. 麻疹（はしか）は約 10－12 日間の潜伏期間の後、初期症状が発熱、咳、咽頭痛、鼻水、眼球結膜の充血、目やに等のカタル症状から発症します。これらの症状が数日続いたあと、一旦下がるかのように見えた発熱が一気に高熱となり、発疹が出始めます。感染力は**症状（発熱、カタル症状）出現の前日から解熱後 3 日を経過するまで続き**、極めて強い感染力を示します。

5. 麻疹（はしか）は**空気感染**します。
感染者と同じ空間、場所にいるだけで強い伝染力をもって感染します。また、感染防御にはマスクは役に立たないとされています。

6. 受診について；

4. のような症状を伴う場合、特に約 10～12 日前の行動を思い出し、海外や人が多く集まる場所に行った等の記憶のある場合は、麻疹（はしか）も疑って、**必ず事前に医療機関に電話連絡してから受診先、時間等の指示を受けてから受診するよう**にしてください。（いきなり医療機関を受診しないよう、必ず事前に状況を伝えて受診場所や受診の方法の指示を受けてください）

なお普段健康な妊婦さんで、「麻疹の抗体が陽性で十分に抗体価がある」、あるいは「麻疹、MR ワクチン、MMR ワクチン等の麻疹を含む予防接種を 1 歳以上で 2 回以上受けた記録のある方は今回の妊娠中に新たに麻疹にかかることは稀と考えられます。

不安な方はかかりつけの産婦人科医にご相談されることをお勧めします。

また、最新情報は下記の参考ウェブで更新されておりますのでご参照ください。

■参考ウェブ

① 麻疹、麻疹 Q and A 最新情報等（国立感染研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

② 流行地の情報

*大阪府ホームページ <http://www.pref.osaka.lg.jp/iryu/osakakansensho/hasika.html>

・厚生労働省検疫所；<http://www.forth.go.jp/>

・外務省海外安全ホームページ；

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcwideareaspecificinfo_2018C028.html